

公募団体 初の試み

「中山先生、若手と語る。」
「公開クロッキー講座」
3月24日(木) (午後2時〜) に開催

■ 白日会第92回展開催にあたり

白日会といえは「写実」との世評を頂いているのですが、なかなか「写実」という観念をお伝えするのは難しくあります。大正期から戦前くらいまでの美

術界では、セザンヌやゴッホの様な作品を取り組みに対し特に「写実」と命名し、所謂「写生」と同時に「ダダ・シ

ユール」と区別していたと推測されます。例えば、安井會太郎、坂本繁二郎、須田国太郎らは、自分の表現を「写実」だと言っています。今の感覚とはずいぶん違う様に思

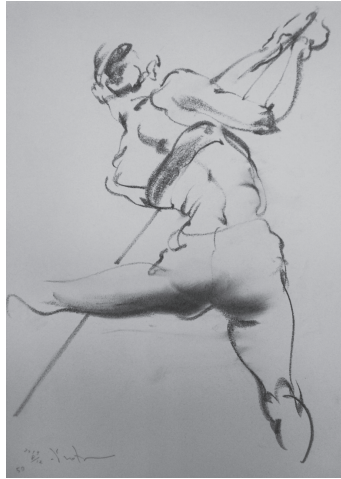
えます。西洋語の「リアリズム」は「現実主義」と翻訳されるべきだったかも知れません。もちろん言葉の観念とイメージは時代と共に変化します。

白日会では昨年秋に、中山忠彦会長が、前会長の伊藤清永先生に続き、終身会長に就任しました。中山会長の言葉を借りれば、「写実」とは、見えるものを通して、見えないものを描くということなるのですが、それは白日会の先達から受け継ぎ、また先達が目指し続けてきたことでもあります。また日本人が絵を描く動機、また絵から感じようとする何かもここにあり、それは過去も現代も未来も、時代の流行の変転があったとしても変わらない確かなものがあるところにあると言えます。こうした写実の筋道を通じて白日会の92回展の出品作品の全体をご高覧頂ければ幸いです。

白日会に息づく「写実」—— 時代を経てなお確かなもの



デモンストレーションでモデルをつとめる
北川ななみさん



広田稔「August 12, 2013 No.50」
A3 木炭

白日会では昨年秋に、中山忠彦会長が、前会長の伊藤清永先生に続き、終身会長に就任しました。中山会長の言葉を借りれば、「写実」とは、見えるものを通して、見えないものを描くということなるので、

第92回白日会展

3月16日(水)～28日(月)国立新美術館
(東京都港区六本木7-22-2)

☎03-5777-8600 ㊟3月22日(火) ㊟一般800円

◎公開クロッキー講座

デッサン講義：

中山忠彦 (日本藝術院会員、白日会会長)

クロッキーのデモンストレーションと解説：

高梨芳実・広田稔・岡田高弘

3月24日(木) 午後2時～ ㊟同館3階講堂 ㊟無料



白日会事務所

(寺久保文宣 白日会常任委員)